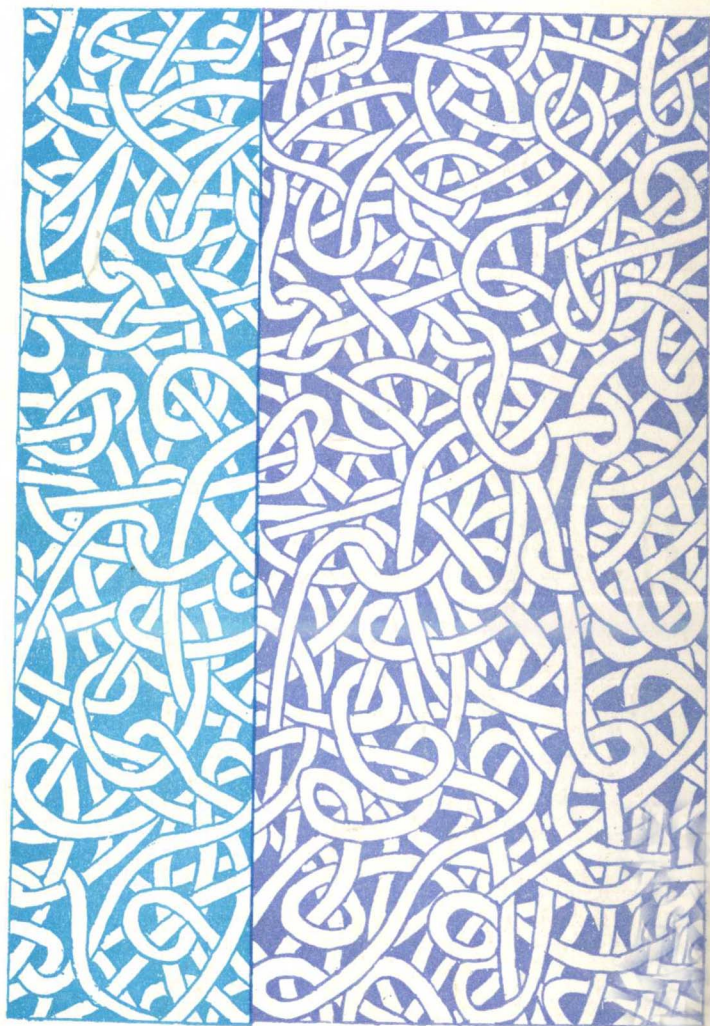


俳句文庫 14

大石雄介句集



海程新社

大石雄介(おおいし ゆうすけ)

昭和15年12月3日、静岡市に生まれる。

住所 ㊞250-01 小田原市栢山3623

俳句文庫 14

大石雄介句集

昭和60年4月1日発行

限定500部の内第

著者 大石雄介

発行所 海程新社

㊞229 神奈川県相模原市横山3

丁目27-14 谷佳紀方

企画委員 阿部完市 大石雄介

武田伸一 谷 佳紀 森田緑郎

装本 大石和子

印刷 共栄印刷KK

製本 修明社製本所

定価1100円／送料200円

大石雄介句集

目次

I

(昭和四十二～四十五年)

5

II

(昭和四十六～五十五年)

12

III

(昭和五十六～五十八年)

79

解説／山本奈良夫

107

I

かつて津波美しかりし金満月

おいおいと空壇割りおり寒満月

書を焚けば夜は美しい静脈

青年の弟と会う犬らかなしむ中

血のきれいな台風圏を南へ抜け

ボクサーと抜ける悦楽の夕雲

友の血が透きしらしらと陽の漁港

青柿打ちつづければかがやく放蕩

肉体は迅しコーヒーに雷火立ち

隈青き犬打ち雨に湯放るらん

秋は稀薄な巨大な野菜交響し

鳥のような抱擁真冬の太陽音

Ⅱ

濡れて毛物ら美貌なりわが誕生日

放蕩のなまみだなまみだ虫世界

剃りあと青し肺満水のボクサー

わが山脈は狼毛のはやさで明け

光まみれ愛戯鳥瞰する俺も

貝売り千人ひかりの岩群抜け

尻や陰や跳ねたりひかりの一枚岩